

「土木広報大賞 2019」応募用紙

団体名：国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所			
応募部門 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> イベント部門	<input checked="" type="checkbox"/> 映像・Web メディア部門	<input type="checkbox"/> アイテム部門
	<input type="checkbox"/> 教育・教材部門	<input type="checkbox"/> 商業広告部門	<input type="checkbox"/> 企画部門
土木広報活動または作品名：首都圏外郭放水路のインフラガイド多言語音声アプリ 及び 洪水疑似体験 AR アプリ			前回の応募： <input type="checkbox"/> 有

広報活動または作品の概要

日本が世界に誇る土木技術を結集して建設された、世界最大級の地下放水路である「首都圏外郭放水路」は、治水施設として地域の洪水被害を防ぐ一方で、“地下神殿”とも称される地下調圧水槽は幅 78 メートル・長さ 177 メートル・高さ 18 メートルの壮大なスケールが人気を集めており、米国 CNN をはじめ多くの海外メディアでも取り上げられ大きな注目を集めている。

インフラツーリズムの拡大に伴い、年々見学者は増加傾向にあり、また、インバウンドの見学者も増えていることから、首都圏外郭放水路の治水施設としての機能や役割、理解向上の促進を図れるツールとして、「インフラガイド多言語音声アプリ」や洪水時の調圧水槽内の様子を疑似体験できる「洪水疑似体験 AR アプリ」を制作したものである。



【インフラガイド多言語音声アプリのポスター】



【洪水疑似体験 AR アプリのポスター】

広報活動または作品の効果

<インフラガイド多言語音声アプリ> 公開2018年8月～

- ・ 首都圏外郭放水路の見学中に疑問に思うことやより詳しく知りたい方は、アプリを見ることで施設の機能や役割を知り、理解向上を図ることが可能。また、見学会の参加前後の予習・復習にも活用可能。
- ・ 首都圏外郭放水路のインバウンドにおいては、国別でみると台湾、中国（大陸）、その他英語圏の見学者が多いため、アプリは、日本語、英語の他、中国語（繁体字）、中国語（簡体字）の4言語を用意し、AndroidとiPhoneのいずれも対応。
- ・ インバウンド対策として、施設内でダウンロードが可能となるよう無料Wi-Fiのアクセスポイントを整備。
- ・ 利用者拡大を期待して日本語音声は著名な声優を起用
- ・ 民間運営による社会実験見学会（2018年8月）開始に併せ、2018年7月実施のマスコミ向け取材会で初披露。多くのマスコミに取り上げられ、メディアを通じた積極的な広報を展開。
- ・



<洪水疑似体験 AR アプリ> 公開2018年8月～

- ・ 首都圏外郭放水路にある調圧水槽内で起動すると、CG演出による洪水が調圧水槽に流れ込む様子がAR（拡張現実）を通して体感することができるため、視覚的に疑似体験することで理解向上を得やすい。
- ・ 単純な仕様となっているため操作が容易であり、またARは視覚に訴えることから、老若男女問わず理解しやすい。（特に子供に人気）
- ・ 日本語、英語の他、中国語（繁体字）、中国語（簡体字）の4言語を用意し、AndroidとiPhoneのいずれも対応。
- ・ 民間運営による社会実験見学会（2018年8月）開始に併せ、2018年7月実施のマスコミ向け取材会で初披露。多くのマスコミに取り上げられ、メディアを通じた積極的な広報を展開。

<他の受賞歴> なし

<参考 URL>

首都圏外郭放水路 HP <http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/gaikaku/index.html>



2018年7月20日マスコミ向け取材会（首都圏外郭放水路）

付属資料の提出

有・無（どちらかに印（✓）を付けてください。）